

5章. 事業コンセプト・方向性の検討

1. 事業目的

本事業の目的を以下のように整理した。

「東御市宿泊交流拠点施設整備事業」は、東御市の豊かな自然環境と地域資源を活かし、観光とスポーツを融合した交流拠点を整備することで、地域経済の活性化と持続可能なまちづくりを推進することを目的とします。

具体的には、本市の強みであるワイン産業を軸に、ワイナリー巡りやテイスティング体験などを楽しめるワインツーリズムを促進し、地域ブランドの確立を図ります。また、高地トレーニングやスノースポーツで人気の高い湯の丸エリアと連携したスポーツツーリズムを推進し、年間を通じて訪れる人々に向けたウェルネスや健康増進を目的とした体験型プログラムを提供します。

本施設の整備により、滞在型観光の促進、雇用の創出、地域資源の有効活用を図るとともに、民間の活力を積極的に取り入れ、官民連携による新たなビジネスモデルを構築します。これにより、本事業を地方創生のモデルケースとして発展させることを目指します。

2. 事業を取り巻く環境

(1) 強み・弱み、社会動向等

事業を取り巻く環境について、本市における内部環境として「強み、使える資源」と「弱み、課題となること」、外部環境として「社会動向、ニーズ」と「他エリアの状況」を次のとおり整理した。

【強み、使える資源】

①豊かな自然や風土

～リラックスしてくつろげる環境がある

- ア. 豊かな自然と特徴的な景観
- イ. 歴史、海野宿、ノスタルジックな風景
- ウ. 豊かな農産物と食文化
- エ. 高い晴天率と冷涼な夏の気候
- オ. 温泉

②豊富なワイン関連資源

～ワインやワインを育む風土・文化を味わえる環境がある

- カ. 15のワイナリーと3つのヴィンヤード
- キ. ワイン&ビアミュージアムなどワイン関連施設
- ク. ワインフェスタなどのワイン関連イベント
- ケ. アルカンヴィーニュのワインアカデミー
- コ. 千曲川ワインバレーの取組

③豊富なスポーツ・健康資源

～一年を通して体を動かし楽しめる環境がある

サ. サイクリングやトレイルランニングが楽しめる環境

シ. スノースポーツが楽しめる環境

ス. ウォーキングやアウトドアが楽しめる環境

セ. 湯の丸ヒルクライムなどのスポーツイベント

ソ. 高地トレーニングの場としての「湯の丸」の認知度

タ. 健やかな人を育む社会づくりの研究・実践に取り組む「身体教育医学研究所」

【弱み、課題となること】

- ①市内に宿泊施設が少ないことから、観光消費額を増やすことが難しい。周辺市町と比べても、消費額の大きい観光地が少ない。（長野県「令和5年観光地利用者統計調査結果」による）
- ②東御ワインへの関心は高まっているものの、ワインと他の地域資源の連携によるツーリズムは十分に構築されているとはいえない。
- ③高地トレーニングやスノースポーツを目的とした来訪を、さらに滞在型ツーリズムにつなげていくことが必要である。

【社会動向、ニーズ】

観光

- ①「体験」「交流」「滞在」が観光のキーワードに
 - ア. 商品に価値を求める「モノ消費」から体験に価値を求める「コト消費」へ
 - イ. テーマ性のある体験・交流型の旅行形態である「ニューツーリズム」の拡大
 - ウ. 観光地巡り（通過型）から、地域の日常を体感する旅（滞在型）へ
- ②外国人観光客の増加による軽井沢の混雑・オーバーツーリズム

ワイン

- ①日本ワインブーム、ワインツーリズムの普及

ウェルネス

- ①健康志向の高まり、ヘルス（ウェルネス）ビジネスの市場拡大
- ②ウェルネス、ウェルビーイングの概念・価値観の広がり
- ③それら実現の重要要素として「出会い」や「交流」が注目される

【他エリアの状況】

- ①山梨・長野エリアでは、美しい景観を生かしたヒルクライムやトレイルランニング、サイクリング、マラソンなどのスポーツが盛んで、ワイン観光地も多いが、「ワイン」と「スポーツ」を連携したツーリズムを目指す地域は多くはない。
- ②ヘルスツーリズムを推進しようとする地域は増えているが、食・ワインとスポーツを関連づけたヘルスツーリズムや、健康レベルの低い人向けのウェルネスツーリズムで差別化を図れる可能性はある。

(2) 市内の宿泊施設の状況

市内の宿泊施設の状況は次のとおり。

- 東御市内の宿泊施設は 24 施設、客室数は約 267 室となっている。
- 周辺自治体と比較すると、施設数・客室数は少ない。

自治体名	宿泊施設数	客室数
東御市	24 施設	267 室
上田市	62 施設	2,384 室
長野市	56 施設	4,548 室
佐久市	37 施設	1,600 室
小諸市	34 施設	623 室
立科町	46 施設	982 室
嬬恋村	144 施設	2,531 室

(令和 6 年 10 月現在、PCKK 調べ)

- 東御市内のホテルは 3 施設で、ほかには民宿や旅館などで小規模なものが多い。ホテルはいずれも特色があるが、観光の高付加価値化やインバウンドにも対応しやすい、少し贅沢な滞在を楽しめるミドルレンジ以上のリゾートホテルはない。

観光地消費額の状況は次のとおり。

- 消費額 10 億円以上（令和 5 年）の観光地は、東御市では湯の丸高原のみであり、周辺市町村と比較しその数は少ない。

自治体名	観光地名	観光地消費額 (令和 5 年、千円)
東御市	芸術むら公園	96,321
	湯の丸高原	1,700,870
	海野宿	4,100
	道の駅雷電くるみの里	639,060
上田市	別所温泉	1,800,160
	丸子温泉郷	1,556,750
	菅平高原	4,582,200
長野市	善光寺	25,770,275
	松代	2,634,295
	戸隠高原	9,769,240
佐久市	佐久平	7,730,688
	平尾山公園	4,362,394
小諸市	高峰高原	1,460,300
	懐古園	1,979,380
立科町	蓼科牧場	3,649,203
	東白樺湖	6,348,776

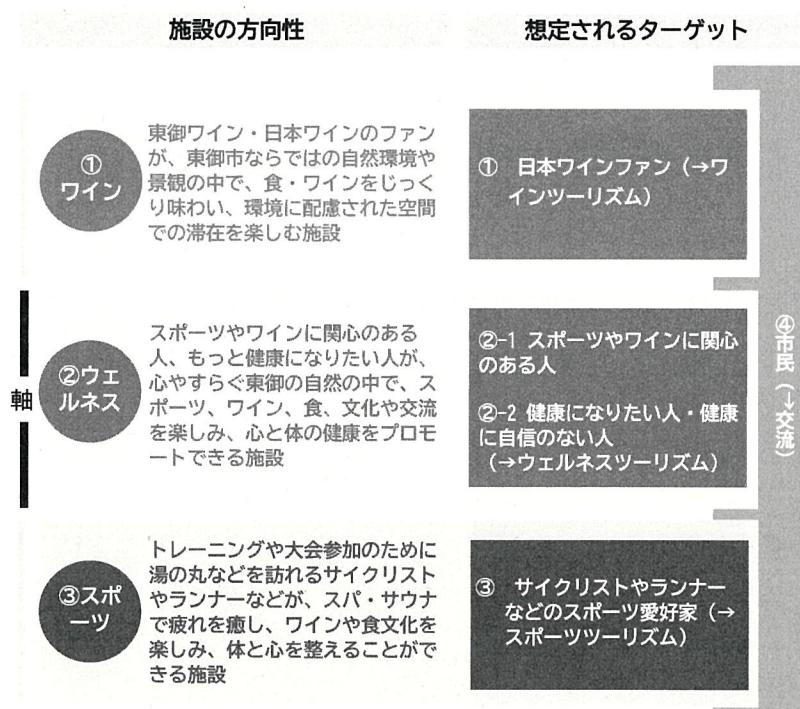
出典：長野県「令和 5 年観光地利用者統計調査結果」

※観光地消費額：観光客の観光行動に伴う経費で、当該観光地内で支出した宿泊費、交通費（最寄の駅等から当該観光地までの往復料金）、飲食娯楽費、土産その他買物費、観覧料又はこれに類するもの、その他。

※東御市以外は、消費額 10 億円以上の観光地を抽出し示した。

3. 本施設の方向性とターゲット

事業を取り巻く環境から、本施設の方向性とターゲットを導くと次のとおりである。



4. コンセプト

施設の方角性とターゲットに基づき、本事業のコンセプトと目指す施設の姿を次のとおり整理した。

東御の風土を五感で味わう ワインがつなぐ交流の丘

四季折々の美しい丘陵風景に包まれて、
東御を巡って、食を味わい、縁を楽しむ。

●ワインや食文化などの地域資源を活かして、**ここだけの体験・交流**の機会を提供し、市民の日常と来訪者の非日常をより豊かにする施設

●**ワインを通じたリラクゼーション**を提供して、利用者の心と身体を癒し、リフレッシュさせる施設

●地域と連携して**東御市ならではのアクティビティやツアープラン**を提供して、**東御市の魅力を発信する拠点**となる施設

5. 導入機能

事業コンセプト実現のための導入機能及び必要な空間を以下のとおり整理した。

